

令和4年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：教授

氏名：小谷 賢

<p>研究課題名</p>	<p>戦後日本のインテリジェンス・ヒストリー</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>本研究の目的は、戦後日本のインテリジェンスに関わる資料の収集と整理と、資料に基づいた戦後日本のインテリジェンス史の学術的研究の促進、にある。海外における諸研究は基本的には二次文献と元実務家へのインタビューに頼っているため、資料の整備は海外からも注目されるものと思慮している。</p> <p>研究の独自性については、これまでの日本における同分野の研究が、法学や「諜報」研究、もしくは資料に基づかない研究、に留まっていたのに対して、本研究の主眼は一次資料に基づいた、欧米流の政治外交史研究や国際関係学の観点からのインテリジェンス研究を行うことにある。それらは例えば、情報組織論、情報の収集、分析、活用までの機能的な研究、情報組織に関わる根拠法や監視体制等であり、これらの視角からの検討によって、戦後日本のインテリジェンスはどのように運営されてきたのか、またその特徴や欠点について明らかにしていくものである。</p>
<p>研究実績の概要</p> <p>研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等</p>	<p>本年度を通じて、内閣官房、外務省、防衛省、警察庁、公安調査庁等のインテリジェンス・コミュニティを形成する関係者から多くのインタビューを実施し、基礎資料の収集に努めた。また史資料として、故・吉原公一郎氏、故・志垣民郎氏が所有していた内閣情報調査室の資料調査と収集を実施した。さらに衆議院の情報監視審査委員会の報告書を調査し、特秘密保護法の運用についても調査を進めた。これらの成果に基づき、2022年8月に単著『日本インテリジェンス史旧日本軍から公安、内調、NSCまで』（中公新書）を上梓した。今後は吉原氏や志垣氏の資料のデジタル化作業に努めたい。</p>